

会 議 録

1 会議名

令和6年度 第6回三郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○自主的な審議（公開）

（1）自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和6年11月26日（火） 午後6時30分から午後7時55分まで

4 開催場所

三郷地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・ 委 員：保坂会長、片山副会長、小山副会長、稲葉（里）委員
竹内委員、竹田委員、和田委員、渡部委員（欠席者4人）
- ・ 事務局：南部まちづくりセンター 大島所長、小池副所長、石黒係長

8 発言の内容

【小池副所長】

- ・ 配布資料の確認
- ・ 稲葉恵子委員、上原委員、梅川委員、小竹委員を除く8人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 同条例第8条第1項の規定により、議長は保坂会長が務めることを報告

【保坂会長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 会議録の確認：稲葉里美委員、竹内委員に依頼

— 次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項について —

【保坂会長】

次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項について に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・資料1、参考資料により説明

【保坂会長】

地域活性化の方向性を改めて見直してみると、構成要素の最後に「地域全体で高齢者や子どもたちを支えあうまちづくりの推進」とあって、今まで出されていた意見に合致することにも気付いていただけたかと思う。また、ほかの構成要素を見てみると2番目の「田園と山々が織りなす四季折々の美しい風景を守り、魅力を発信」というのも私たちの地域のすばらしさである風景を基にして取り組みやすいテーマではないかと思っている。今日は自主的審議事項についてまだまだ絞り切れていない部分がたくさんあるので、2班に分かれて話し合いを続けたいと思う。

地域活性化の方向性は前期の委員が作成したものなので、何かわからないことがあったら分かれる前に質問をしてもらいたい。資料1で前回の話し合いの結果をまとめていただいたものがあるが、これについても質問があればぜひお願いしたい。なければ私のほうで補足だが、第5回地域協議会で出された意見で「団体がたくさんある。重複している役員もいるのではないか。」というのがあったが、三郷まちづくり振興会では16の団体があり、いくつかの団体で役員が重複している。負担がかかっているという面もあるが、現段階では協力しながらうまくやれているので、しんどいとか大変だという声は届いていない。しばらく様子を見たいと思っている。

情報提供として、11月29日に来年度の三郷小学校閉校に関わる記念事業についての第1回目の打ち合わせが行われる。役員20名で組織されていて、地域協議会の代表として私にも参加依頼があったが、別の用事があって参加できないため小山副会長から出席していただく。記念事業に関しては、これから話が進められていくのではないかとと思っているが、皆さんに何らかの形でご意見をいただいたり、実

際の活動でご協力をいただく点多々出てくるかと思う。その際は、早めに連絡するのでよろしくお願ひしたい。

班分けは、小山副会長、稲葉里美委員、竹内委員、竹田委員の班と、和田委員、渡邊委員、片山副会長、私の班でお願ひしたい。場所はここと1階の和室として、時間は午後7時15分までの35分間とする。その後、話し合った内容を共有し、絞り込めたら絞っていきたいと思う。

(班ごとに話し合い)

— 会議を再開 —

【保坂会長】

それぞれの班で話し合った内容を発表していただきたい。

【小山副会長】

自主的審議事項とか地域活性化の方向性と言われても、どういうものなのかまだはっきりとわからなくて意見が出しにくいのが、前期の経験から話させていただくと、春駒については委員で話し合った意見が実際に活動につながっていったということがある。

地域活性化の方向性の構成要素に「田園と山々が織りなす四季折々の美しい風景を守り、魅力を発信」というのがあったが、これに関連して板倉区の芝桜や他の区のヒマワリ、コスモスなどのように三郷区でも植栽をできないか、三郷花を楽しむ会の方たちに協力を仰ぎつつ進めていければよいのではないか、という意見も出た。板倉区はイベントにすごく積極的で成功例として参考にできたらよい、という話もあった。また、田園と山々の写真を撮影してコンテストもできればよい、写真を撮るにあたっては地域のカメラが趣味の方に写真の撮り方を教えてもらえないか、という意見もあった。また、撮影した写真の発表の場として、三郷区の文化祭で発表できたらよい、という意見もあった。三郷の公式SNSを開設して、いろいろな風景や情報を発信できたらよい、という意見もあった。

また、同じく地域活性化の方向性の「地域全体で高齢者や子どもたちを支え合うまちづくりの推進」ということに関しても、小学校や保育園がなくなってしまうので子どもたちとの関わりが難しくなっていくのではないかと、という意見もあった。子ども会やENJOY35など、子どもたちと関わる関係団体のいろいろな活動に参加したり、協力できることは協力していきながら繋がっていければよい、という意見もあった。

【片山副会長】

三郷区の現状として、有線放送の廃止に伴い町内への情報伝達等に課題が出てきている。また、同じ町内でも誰かわからない人がいたり、話したこともない人もいたりすることから、地域で暮らすことの安心につなげていくような取組を何か考えていきたいということである。消防団員も減少している。子どもも減少し、町内の役員などもなり手がいないという問題が出てきている。

それではどうしていくかということについて、長いスパンでの対策が必要である、という意見があった。先ほどの「三郷の魅力を発信」ということに繋がっていくところがあると思う。三郷が住みよい地域であって、ここに暮らしたいということになれば、ここから離れる人を少なくすることもできるし、いろいろなコミュニティ発信による地域の活動もできていくのではないかと。まずはここに住んでもらうことを最重点とし、住みよい三郷区とはどのようなものか考えていこうということである。具体的な内容の協議まで至らないまま時間が経過してしまっただが、一言でいうと、魅力ある三郷を発信していく手段を考えていくべきではないかと、ということである。

【保坂会長】

今の発表で何か補足や意見があれば発言をお願いしたい。

【渡部委員】

別のグループのSNS案に賛成である。

それはそれとして、皆さん三郷に住んでいて、住まざるをえなくて住んでいる人も中にはいると思うが、それでも住み続けてくれている人たちなので、少なからず何かの魅力を感じたり、安心があったり、居心地の良さがあつたりするのかなと思う。

ここに集まっている委員の方たちが感じている三郷の魅力、安心感、居心地の良さなどについて、私は生まれも育ちも三郷で見えていない部分もあるかと思うので、ぜひ教えてほしい。

【保坂会長】

ここからいろいろな話に繋がっていくかもしれないので、皆さんが話せる範囲でざっくばらんにお話しいただきたい。

【渡部委員】

私が三郷を出たきっかけは都会への憧れもあるが、進学の関係で一度出て、多分戻ってこないだろうなと思っていましたが、子どもを育て仕事をするのを考えたときに実家しか思いつかなかった、というのが三郷に戻ってきた一番の理由である。三郷に住み続けているのは、私自身小さい頃から住んでいた安心感もあるし、何より知っている友人がいる。よく行く場所も決まっているが、そこに対しても愛着や安心感がある。私は、何より安心感優先でここに住んでいるので、今後もきっと三郷にいると思う。ここにいれば自分を守れる。知っている人もいるという安心感、そこから話し合いの中でも意見を出させていただいた。

【和田委員】

私は新潟市の専門学校に進学した。家を継がなくてはいけないという固定概念があって、就職する際にこちらに戻ってきた。祖父母を介護するなら自分が面倒を見たいという思いもあり、一緒に近くにいたいという気持ちも強く、三郷の実家に戻ってきた。小学生のときから可愛がってもらっていた上の世代の方も周りに住んでいたりもするので、自分も住みなれたところで暮らしていくのがよいのかなというのと、小学校が近かったということもある。近くで親が子どもを見てくれる安心感もある。家も建てたので三郷で頑張っていきたいと思っている。

【竹田委員】

私は県外から移住してきたので、このことをかえってよくわかるのではないかなと思う。雪もないところから来たので、最初は雪や性格が暗くなるような空の色にめげるが多かった。子どもができてからは外に出ることが多くなり、たとえ雪でもどこかに遊びに連れて行かないといけない。どこかに行こうと思ったときに、

バイパスが近いので買い物や通勤も便利だし、病院や医院も近く、東京などでは考えられないくらいである。三郷は本当に住みやすいのではないかと思う。子どもたちは中学校も高校も近かったし、雪以外は本当に何とも思わなかった。家のリビングの窓からは妙高山がドーンと見える。毎日妙高山の風景を見ながら30年経っているが、飽きることがないので、これはきっと魅力なのではないかと思っている。多分、三郷にずっといると思う。

【竹内委員】

私も和田委員に近い考え方で、大学で東京に4年行ってから就職で新潟県に戻ってきた。都会にもいたし、いろいろなところに行ったが、渡部委員が言われた安心感があることと、親戚が多いので親戚の集まる場所は残さないといけないという思いで実家を新しく建て替え、三郷にとどまることになった。竹田委員が言われたように妙高山がかなり綺麗に見える。今、小さい子どもが歩けるようになったが、この辺は歩道がかなり広いので歩かせても安心して見ていられる。家の周りで自然の空気に触れながら伸び伸び暮らしているのは、やはり魅力がある。意外と交通の便も悪くない。バイパスもあるし、新井柿崎線で走ればすぐに妙高市や柿崎区のほうも行ける。そういった面でも良いところではないかと思う。雪はちょっとしんどいが、雪が降らないと何か物足りない感じもするし、かなり晴れた日は雪景色も綺麗に映るし、そういうところは三郷の魅力の一つではないかと思う。

【稲葉（里）委員】

私は春日山の方から三郷に来たが、なんてすばらしい環境があるのだろうと思った。皆さんが言われるように眺めがよくて、四季折々の緑がだんだん成長して背丈が高くなって、その様子が見られるこの三郷は本当によいところだなと感じた。今思い返してもすごいと思うのは、三郷小学校の大運動会で子どもたちと地域の人たちが一緒になって一生懸命やっていたことである。20年以上経つが、子どもたちが自分も大人になった時そうするのだという自然な流れができていると思っている。子どもの同級生の親御さんの人の良さというのもあると感じている。ここにいる皆さんもすごく一生懸命に三郷について考える仲間だし、子どもに昔の話をしたりできる人がいるというのもすごく幸せな環境だなと思う。子育てはしやすいし、

不便なところがあまりないので子どもが本当に伸び伸びと育つ場所なのだと思う。こんなことを言いながら私は都会も好きだし、日本全国いろいろ住みやすいところはたくさんあるという思いもある。都会も好きだが、それは自分で行ってみればよい話で、戻ってきてまた三郷でそのよさを新たに感じられるかなと思った。よい質問をしてくれてよかった。皆さんの話が聞けて面白かった。

【小山副会長】

私も就職して一度は都会に出ているが仕事の都合で戻ってきた。結婚して家を出るか出ないかとなったが、結局三郷から離れることなく当たり前のようにここにいるが、それだけ三郷がよいのだと思う。子どもを育てるにしても安心だし、何かあっても病院もそんなに遠くなく、車があればどこに行くにしても不便を感じない。子どもたちが自然の中で伸び伸びと大きくなったこの三郷には、他にはない魅力があるのだろうなと思いながら日々子育てをしてきた。ずっと三郷にいることになると思う。山が綺麗だと思えば写真を撮るし、白鳥が飛来すればやはり写真を撮ったりする。身近に白鳥を見ることができ、この三郷はよいと思う。

【片山副会長】

私はこちらに住んで6年になるが、一番困るのは雪が多かったことである。私の生まれた下越はそんなに雪は降らなかった。それが生活の中で嫌なことだが、住んでみて良かったのは、皆さんが言われたように四季が感じられて景観が良い。私も朝カーテンを開けて妙高山を見ている。妙高山も黒姫山も飯縄山も火打山も綺麗だと本当に思っている。今は伸び伸びと生活している。車さえあれば海でも山でも他県でも行けるし、高速道路も新幹線も乗ろうと思えばすぐに乗れる。どこへでも行ける交通の便利さも非常に良いところだと思う。

【保坂会長】

私にとって地元に戻ってくるという選択肢は、家を継ぐということでもあったので悩んだが、やはり親と一緒にいたいという思いが強かった。戻ってきたときには地域の人たちがとてもよくしてくれたし、青年団活動では役員もやらせてもらった。

あちこちに青年団の仲間や小学校の仲間がいるし、帰って来てよかったと思うことも多い。地域の人との繋がりもあり、小さい町内の中でみんな顔が見えて、かえっ

見えすぎて嫌だという人もいるかもしれないが、だからこそ手を差し伸べられたり、声をかけられる部分もあると思う。人数も少ないので、毎年何か役員をやらなければいけない状態だが、それはそれで良いのかなと思っている。

私も妙高山が大好きで、我が家のカーテンを開けて今日の妙高山はどうかとか、裏庭を眺めたりしているし、友達も我が家に来ると必ずその両方を見て、やっぱり良いねと言うので、そこで心が癒されるのかなと思ったりしている。

三郷の魅力ということについては、気付いている人もいたり、なかなか気付けない部分もあったりするが、やはり安心感だったり、風景の良さといったことではないか。しかし、なかなか良さを生かしきれていない部分もあるので、今後の自主的審議事項として何を課題としてあげていくか、また皆さんで相談していかなければならないのかなと思っている。皆さんから、三郷の魅力を感じて住み続けられていることの本音の部分がたくさんお聞きしたので、それをまとめて12月に自主的審議事項として何を取り上げていったらよいか、事務局と正副会長会議の中でまとめていきたいと思う。

【片山副会長】

先ほど言い忘れたが、町内会では困りごとはみんな教えてくれるし、こんなによい人ばかり集まっていてよいのかな、と思っていることはお伝えしておきたい。町内の作業も楽しくやれるし、本当にありがたい。そうした人の魅力も発信できたらよいな、ということだけ付け加えておきたい。

【保坂会長】

以上で次第2 自主的な審議（1）自主的審議事項について を終了する。

— 次第3 事務連絡 —

【保坂会長】

次第3 事務連絡に入る。

事務局より説明を求める。

【小池副所長】

- ・第7回地域協議会：12月17日（火）午後6時30分から 三郷地区公民館
- ・新年祝賀会の開催について説明

【保坂会長】

事務局の説明について、質問のある委員の発言を求める。

【稲葉（里）委員】

新年祝賀会は何をすところなのか。

【小池副所長】

上越市内のいろいろな役職に就いている方や企業、団体の代表の皆さんが集まり市長等と新年の挨拶を行うものである。新年会という感じではなく、セレモニー的なイベントになる。出席されたことのある方がいたら補足をお願いしたい。

【保坂会長】

私は名簿に名前を出すだけで一度も参加していないが、名簿を見るとそれぞれの団体、企業の方が名を連ねている。

【小池副所長】

地域協議会の会長には名簿に名前を出している方もあるが、一般の方はほとんどいらっしゃらないと思う。

【保坂会長】

本日の議題は全て終了した。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。